

クウェートでのアラビア語学習を終えて

9月末にクウェートに来てから、あっという間に帰国日を迎えることとなった。クウェートに到着した日のことを、今でも昨日のことにように思い出す。思えば、私の留学生活は、たくさんの人々に支えられ助けられる毎日だった。世界各国の留学生と生活を共にした寮生活、初心者の私には難し過ぎたアラビア語学習、日本大使館の日本文化広報イベントなど、クウェート留学で経験した全ての出来事が、私を成長させてくれた。ここでは、特に学習面において、私が経験したいくつかの印象的な出来事について述べたいと思う。

前述したように、私はアラビア語に関しては、素人だった。留学当初、私はアルファベットが読める、簡単な文法が理解できる、自己紹介ができるという程度の初心者同然のアラビア語能力しか有していなかった。そんな私がクウェートでアラビア語を学びたいと考えたのは、将来、中東地域で働きたいという強い目標があったからだ。また、アラブの文化にも興味を持っていた。日本語で得られる中東地域の情報は、ごくごく限られた、偏ったものでしかない。だからこそアラビア語を修得し、アラビア語→英語→日本語と翻訳された文献などではなく、アラブ人の「生の声」を聞くことができるようになりたかった。素人のままでは日本に帰れない、という強い思いを持って今日まで勉強に励んできた。

留学する以前は、クウェートは勉強するには最適だと思っていた。前年度の留学生などから、クウェートは娯楽が少ないので、やることなく暇だと聞いていた。夜9時半という女子寮の早すぎる門限も、勉強だけに集中するのに最適の環境だと思った。しかし、クウェート人の穏やか過ぎるムードや、リラックスした環境は人を容易に怠惰にさせてしまう。私はまず、こうした環境と闘わなければならなかった。日常生活でアラビア語を使う必要があまりないこと、アラブ人が時間にルーズなこと、先生が優し過ぎること、周囲の生徒たちの向学心の無さ、こうした周囲の環境は、恵まれてはいるが決して勉強に最適と言えるものではなかった。例えば、クウェートはアジア系労働者で溢れているため、誰もが英語を流暢に話すことができる。日常生活の中でアラビア語を使わなければならない機会がごく僅かで、英語だけで生活をしていくことも、十分可能だ。また、通学の際、女子寮から大学まではバスで通うことができるのだが、アラブ人の生徒がいつも遅れてくるため、バスの出発予定時刻が守られることはほとんどなかった。遅れてくる他の生徒のために毎朝何十分も待たなければならず、時には授業に遅れてしまうこともあった。授業では、先生が優し過ぎるため、私のアラビア語のリスニング力は伸び悩んだ。というのも、初級クラスの授業が一番レベルの低い生徒に合わせて進められ、先生が授業中でも英語を多用したからだ。そして、特にクウェート人の女子生徒たちの学習意欲の無さには驚かされた。図書館やカフェなどに行くと、勉強道具を持っている生徒たちをたくさん見かけるのだが、実際に勉強している生徒はほとんどいない。どの生徒もお喋りに夢中だった。こうした環境の中で語学力を伸ばしていくことは、容易ではなかった。クウェートでの学習は、本当に何もかもが自分次第だった。

このような環境の中でアラビア語力を向上させるために、私は2つのことを大切にしてきた。第1に、分からないことがあれば人に聞くと言うことだ。第2に、人との出会いを大切にすることだ。

まず第1に、私は分からないことや疑問に思う全てのことを友達や先生に聞いて、聞いて、聞きまくった。聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥と言う言葉を肝に銘じて、大学の教授のみならず、友達や寮の従業員、タクシーの運転手まで、あらゆる人々から学ぶ姿勢を大切にしてきた。クウェートでは、全ての人々が私の先生となり、アラビア語は勿論、あらゆることを教えてくれた。私の拙いアラビア語を聞き、会話の練習に付き合ってくれた女子寮の友達、どんな小さな質問にも答えてくれた教授たち、授業が始まる前にイスラーム教の歴史を教えてくれたクウェート人、授業で理解しきれなかった部分を細かく教えてくれた世界各国の留学生のみんな、下車するまで延々とアラビア語で話しかけてきたタクシーの運転手。こうした様々な人々の支えと助けがあったからこそ、無事に10ヶ月間のクウェートでの留学生生活を終えることができた。

第2に、全ての出会いを大切にすることだ。そこで、私が大切にしてきたことは、あらゆる日本関連のイベントに参加することだ。どんな小さなイベントであれ、日本と名のつくもの、ほぼすべてに参加した。正直に言うと留学当初、私は日本の文化には一切興味を持っていなかった。ただなんとなく、友達が出来たらいいな、という感じでイベントに参加しただけだった。しかしそのイベントで、私は日本文化がクウェートでとても人気があることを知り、非常に驚いた。国籍を問わずクウェートに住む多くの人々が日本に対して好意を持ってくれていた。クウェートという地理的にも遠い国で、日本の文化が高く評価されているということがとても嬉しかったし、もっともっとより多くの人々に自分の文化を知ってほしい、伝えていきたいと感じるようになった。特に在クウェート日本国大使館の日本文化広報イベントは、様々な人との出会いを与えてくれたし、アラビア語で話す機会を拓けてくれた。クウェートで経験したこと全てが、今では私の財産となっている。

最後になりましたが、この国で学ぶ機会を与えて下さったクウェート政府、クウェート大学、在クウェート日本大使館の方々、私達の留学生生活を支えて下さった日本人会の皆さまには、心から感謝しています。クウェート留学で得た経験を、今後は日本・クウェートの更なる友好関係促進に繋げていきたいです。本当にありがとうございました。



クラスメイト



国際図書展